

宇都宮市立清原北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問では、肯定回答が95%を超え、県や全国を大きく上回っている。学習や学校行事等、児童が活躍する場を積極的に設け、挑戦する機会を与えたり、失敗をしても次につながるような声掛けをしたりすることで、進んで挑戦しようとする児童を育成する。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定回答が100%である。引き続き知的好奇心や自己肯定感を高める指導の工夫を行う。

○「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」の質問では、県や全国と比べて使用時間が短い。一方、「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、県や全国と比べ、勉強時間が長い。

○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の肯定回答が県や全国より20%以上高い。本校独自の会話科「ことばの時間」をはじめ、国語や総合的な学習の時間などを中心に、自分の考えをより明確に伝える方法について考えたり、実践したりする機会を今後も継続して設定していく。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定回答は県や全国に比べ15%以上低い。学区内から通学する児童が少ないことや、新型コロナウイルス感染防止策の影響も考えられるが、学校のある地域や住んでいる地域、市全体に関心を持ち、行事等に参加するよう、宇都宮学を中心に指導の充実を図る。

●「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問では、県や全国に比べ、使用頻度が少ないが、「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり調べたりするために、どの程度使用していますか」の質問では県や全国より頻度が高い。一人一台端末が導入され、使用頻度が高まったため、情報モラルや機器の扱い方などの適切な指導が必要である。学校全体で情報交換をし、協力して指導の充実に努める。

●「英語の勉強は好きですか」の肯定回答が県、全国を下回っている。特に、「当てはまらない」の回答が県や全国の約2倍と、好き嫌いが二極化している。英語を使ってコミュニケーションを行う楽しさや、外国について知る楽しさなどに気付けるよう、相手意識をもたせた授業や、英語を使うよさの設定など、授業展開の工夫を行う。

宇都宮市立清原北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や 成就感を高めるための指 導の工夫	・学習意欲を高める導入の工夫や、めあ ての提示と見通し、学習の振り返りを徹 底した授業づくり ・ユニバーサルデザインの視点を取り入 れた教材や授業展開の工夫 ・デジタル教材やタブレット等のICT機器 の効果的な活用	「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、 他の友達と意見を交換したり調べたりするために、 どの程度使用していますか」の質問では使用頻度 が県や全国を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「英語の勉強は好きですか」の肯定回答 が低く、好き嫌いが二極化している。	・児童一人一人の達成感 や成就感を高める授業づく り	・児童の意欲を喚起し、自らの学びを実感できるよ うな活動を設定したり、英語を使ったコミュニケー ションを行うときには楽しさを味わえるような活動 を行い、児童の意欲を高められるようにする。